

難コースに全国の強者が挑む
「小田川シクロクロスinうちこ」

オフロードの自転車競技大会「第11回小田川シクロクロスinうちこ」が11月19日、豊秋河原の特設コースで開催されました。全国から延べ270人が参加し、キッズやレディースなど7クラスに分かれてレースを実施しました。1周2.4キロのコースには前日の雨でぬかるんだ場所もありましたが、選手は力強い走り、白熱したレースを展開しました。



午後は4人以内のチームで制限時間内に周回数を競う耐久レースを実施。初心者から上級者まで60チームの見ごたえある熱戦に、沿道から大きな声援が送られました。各部門の入賞者には町内産の杉で作られた記念の盾と、柿などの副賞が贈られました。また会場では屋台コーナーで軽食やコーヒーが用意され、選手や応援に来た人が疲れを癒していました。

1_県道や河川敷、階段などを利用した特別コースで競い合った
2_緊張のスタートの瞬間 3_水たまりをものともせず、しぶきを上げて疾走する 4_表彰台で健闘をたたえ合う 5_耐久レースではチームで協力 6_多くの人が沿道からエールを送った



上_子育て支援センターで、内子のいいところや改善点を協議 下_産業関係者や役場職員が熱心に議論

第3期内子町総合計画の策定に向けて、住民の意見を集めるワークショップが11月30日、町民会館などで開かれました。午前中は子育て世代を対象に実施。親子連れ29人が内子町の子育て環境を振り返り、「一時保育や病児保育ができるところが足りない」「子どもがふるさとを体感できるイベントがあれば」など、欲しいものや育児への思いを話し合いました。

午後は農林業や商業、観光業などの関係者33人が意見交換。産業の現状と課題についてスマートフォンで意見を集め、AIを活用して情報を整理する手法で、目指すべきまちの将来のイメージを共有しました。集まった意見は計画の基本構想の資料として活用。今後も関係各所と協議を重ね、10年後の内子町の未来予想図として計画をまとめていきます。

内子にあるもの、ないもの、欲しいもの
総合計画策定に向けた意見交換



上_受賞を喜び協議会の皆さん 下_月に2回開かれるカフェは地域内外のお客さんに大人気

「令和5年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」の表彰式が11月3日、東京都で開かれ、みそぎの里運営協議会が総務大臣賞を受賞しました。この賞は住民の生きがいづくりなどの地域活動で成果を上げた団体に贈られるもので、全国から201件の応募がありました。同協議会は閉校した旧御蔵小学校舎を利用し、コミュニティスペース「みそぎの里」を運営。カ

フェ部門の女性部や、空き教室に出店する個人事業主などで組織しています。校舎を共同管理するなどの工夫や、関係人口を創出している点などが高く評価されました。女性部の西川真由美さんは「地域を未来につながるみんなの頑張りにスポットが当たってうれし

「日本のビール王」の生家・

旧高橋家住宅が国の登録有形文化財へ

国の文化審議会が11月25日に開かれ、旧高橋家住宅を登録有形文化財とするよう答申されました。同住宅はアサヒビール(株)の前身・大日本麦酒の社長を務め、通産大臣として戦後の経済復興を支えた故高橋龍太郎さんの生家。遺族から平成5年に

町へ寄贈され、和洋折衷で趣のある文化交流施設として活用されています。館内では記念のパネル展を12月25日まで開催。佐川恵美さん、松山市は「高橋邸の雰囲気が好きで毎月訪れている。いつまでもこの佇まいを残して」と笑顔で話しました。



高橋邸にまつわる歴史や、建物の造りの特徴などを解説したパネル展示



参列した遺族が一人一人献花し、平和への決意を新たに

平和の尊さを語り継ぐために――
「内子町戦没者慰霊祭」を挙

戦争で亡くなった人を追悼し平和を祈念する「内子町戦没者慰霊祭」が11月21日、内子東自治センター1026柱の御霊に黙とうを捧げました。小野植正久町長は「内子町の美しい姿は、戦争で犠牲に

なった方々を礎に築かれていることを忘れてはならない。平和を願う御霊の遺志を語り継ぎ、健康で心豊かな町づくりへ全力を尽くすことを誓います」と追悼の言葉を述べました。参列者は祭壇に献花し、戦没者の冥福を祈りました。